

イトリゾールカプセル50

【この薬は？】

販売名	イトリゾールカプセル50 I T R I Z O L E C a p s u l e s 5 0
一般名	イトラコナゾール I t r a c o n a z o l e
含有量 (1カプセル中)	50mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、トリアゾール系経口抗真菌剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、真菌の細胞膜成分の合成に必要な酵素の作用を妨げることにより、真菌の増殖を抑えます。
- ・次の病気の人に処方されます。

【適応症】

○内臓真菌症（深在性真菌症）

真菌血症、呼吸器真菌症、消化器真菌症、尿路真菌症、真菌髄膜炎

○深在性皮膚真菌症

スポロトリコーシス、クロモミコーシス

○表在性皮膚真菌症（爪白癬以外）

白癬：体部白癬、股部白癬、手白癬、足白癬、頭部白癬、ケルスス禿瘡、白癬性毛瘡

カンジダ症：口腔カンジダ症、皮膚カンジダ症、爪カンジダ症、カンジダ性爪囲爪炎、カンジダ性毛瘡、慢性皮膚粘膜カンジダ症

癬風、マラセチア毛包炎

○爪白癬

[適応菌種]

皮膚糸状菌（トリコフィトン属、ミクロスポルム属、エピデルモフィトン属）、カンジダ属、マラセチア属、アスペルギルス属、クリプトコックス属、スポロトリックス属、ホンセカエア属

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。
- ・爪白癬（パルス療法）の場合、この薬は、一度変色した爪を回復させるものではありません。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・ピモジド、キニジン、ベプリジル（ベプリコール）、トリアゾラム（ハルシオン）、シンバスタチン（リポバス）、アゼルニジピン（カルブロック）、アゼルニジピン・オルメサルタン メドキシミル（レザルタス配合錠）、ニソルジピン、エルゴタミン・カフェイン・イソプロピルアンチピリン（クリアミン配合錠）、ジヒドロエルゴタミン、エルゴメトリン、メチルエルゴメトリン（パルタンM）、バルデナフィル（レビトラ）、エプレレノン（セララ）、ブロナンセリン（ロナセン）、シルデナフィル（レバチオ）、タダラフィル（アドシルカ）、スボレキサント（ベルソムラ）、ボルノレキサント水和物（ボルズィ）、イブルチニブ（イムブルビカ）、チカグレロル（ブリリント）、ロミタピド（ジャクスタピッド）、イバブラジン（コラン）、ベネトクラクス（再発又は難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）の用量漸増期）（ベネクレクスタ）、ルラシドン塩酸塩（ラツータ）、アナモレリン塩酸塩（エドルミズ）、マバカムテン（カムザイオス）、フィネレノン（ケレンディア）、ボクロスポリン（ルプキネス）、イサブコナゾニウム硫酸塩（クレセンバ）、ロナファルニブ（ゾキンヴィ）、パロバロテン（ソホノス）、アリスキレン（ラジレス）、ダビガトラン（プラザキサ）、リバーロキサバン（イグザレルト）を使用している人
- ・肝臓または腎臓に障害があり、コルヒチンを使用している人
- ・過去にイトリゾールカプセルに含まれる成分で過敏症のあった人
- ・肝臓に重篤な障害がある人または過去に肝臓に重篤な障害があった人
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・過去に薬剤で過敏症のあった人またはアレルギー反応の経験をしたことがある人
- ・うっ血性心不全の人または過去にうっ血性心不全があった人
- ・腎臓に障害がある人
- ・肝臓に障害がある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬（○次の人は、この薬を使用することはできません。を参照）や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

- この薬とワルファリンを併用すると、ワルファリンの作用が増強し、出血の危険性が高くなった症例が報告されています。この薬を飲み始める前に、ワルファリンを使用している人は、そのことを医師に伝えてください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

〔内臓真菌症（深在性真菌症）の場合〕

通常、成人の飲む量および回数は、1回2～4カプセルを1日1回食直後に飲みます。
ただし、イトラコナゾール注射剤からの切り替えの場合は、1回4カプセルを1日2回食直後に飲みます。

〔深在性皮膚真菌症の場合〕

通常、成人の飲む量および回数は、1回2～4カプセルを1日1回食直後に飲みます。
1日の最大使用量は4カプセルです。

〔表在性皮膚真菌症（爪白癬以外）の場合〕

通常、成人の飲む量および回数は、1回1～2カプセルを1日1回食直後に飲みます。
ただし、爪カンジダ症およびカンジダ性爪囲爪炎（そういそうえん）の場合は1回2カプセルを1日1回食直後に飲みます。
1日の最大使用量は4カプセルです。

〔爪白癬（パルス療法）の場合〕

通常、成人の飲む量および回数は、1回4カプセルを1日2回食直後に1週間飲み、その後3週間休薬します。これを1サイクルとし、3サイクル繰り返します。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

〔内臓真菌症（深在性真菌症）、深在性皮膚真菌症、表在性皮膚真菌症（爪白癬以外）の場合〕

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

〔爪白癬（パルス療法）の場合〕

決して2回分を一度に飲まないでください。

1回または1日分を飲み忘れた場合には、1回または1日後ろにずらして飲んでください。
ただし、飲み忘れた日数によっては効果が低くなる可能性がありますので、医師に相談してください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、ただちに医師に連絡してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・うっ血性心不全をおこすおそれのある患者さんはこの薬の副作用について十分に理解できるまで説明を受けてください。この薬を飲んで足のむくみや息苦しいなど体に異常が認められた場合はすぐに受診してください。
- ・肝障害、胆汁うっ滞、黄疸があらわれることがありますので、定期的に肝機能検査が行われることがあります。

- ・イトラコナゾール注射剤からこの薬に切り替えた場合、高い血中濃度が持続しますので、この薬を飲んでいる間は定期的に血液検査などが行われることがあります。
- ・ワルファリンと併用する場合は、出血のしやすさを確認するため、血液検査の回数が増やされることがあります。
- ・低カリウム血症があらわれることがありますので、定期的に血中電解質検査が行われます。
- ・爪カンジダ症、カンジダ性爪囲爪炎のために6ヵ月程度この薬を飲んで、改善が認められない場合は、使用が中止されます。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人はこの薬を使用することはできません。
- ・授乳している人は、医師に相談してください。
- ・妊娠する可能性のある人は、この薬の使用のおよび使用終了後1ヵ月間は避妊してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
うっ血性心不全 うつけっせいしんふぜん	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重が増える
肺水腫 はいすいしゅ	息苦しい、息をするときゼーゼー鳴る、咳、痰、呼吸がはやくなる、脈が速くなる、横になるより座しているときに呼吸が楽になる
肝障害 かんしょうがい	疲れやすい、体のだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
胆汁うっ滞 たんじゅううたい	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
中毒性表皮壊死融解症 (TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう (テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほっしんせいのうほうしょう	発熱、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る

重大な副作用	主な自覚症状
剥脱性皮膚炎 はくだつせいひふえん	ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、発熱をしばしば伴う
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節の痛み、喉の痛み
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
低カリウム血症 ていカリウムけっしょう	体に力が入らない、体が動かせない、息苦しい、お腹が張る
偽アルドステロン症 ぎアルドステロンしょう	手足のだるさ、しびれ、こわばり、力が抜ける感じ、手足がつる、顔や手足がむくむ、頭痛、喉が渇く、食欲不振、吐き気、嘔吐（おうと）、意識の低下、動けなくなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	疲れやすい、むくみ、体重が増える、体がだるい、力が入らない、食欲不振、体がかゆくなる、発熱、発熱をしばしば伴う、冷汗が出る、ふらつき、体に力が入らない、体が動かせない、力が抜ける感じ、顔や手足がむくむ、動けなくなる
頭部	めまい、意識の消失、頭痛、意識の低下
顔面	顔面蒼白
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ
口や喉	咳、痰、吐き気、唇や口内のただれ、喉の痛み、喉のかゆみ、喉が渇く、嘔吐
胸部	息苦しい、息切れ、息をするときゼーゼー鳴る、呼吸がはやくなる、横になるより座っているときに呼吸が楽になる、動悸
腹部	お腹が張る
手足	脈が速くなる、関節の痛み、手足が冷たくなる、手足のだるさ、しびれ、こわばり、手足がつる

部位	自覚症状
皮膚	皮膚が黄色くなる、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともしなう発疹が出る、ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、全身のかゆみ、じんま疹
尿	尿の色が濃くなる

【この薬の形は？】

	8 カプセル P T P	1 0 カプセル P T P
P T P シート		
	表面	表面
		
	裏面	裏面
形状	2 号硬カプセル	
		
直径	6 . 3 5 mm	
長さ	1 8 . 1 mm	
色	キャップ、ボディともに淡黄色不透明	
識別コード	J K 9 0 1	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	イトラコナゾール
添加剤	白糖、トウモロコシデンプン、ヒプロメロース、マクロゴール2000、ブチルヒドロキシアニソール

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ヤンセンファーマ株式会社

(<https://innovativemedicine.jnj.com/japan/>)

メディカルインフォメーションセンター

電話（フリーダイヤル）：0120-183-279